



当日の餌木タコ仕掛け

●Tackle Guide
竿は餌木タコ専用ロッドがお勧め。ほかには全長1.5~1.8メートルで8:2調子のゲームロッドなどが流用できる。集魚グッズはメーカーから様ざまなアイテムが販売されているので好みで装着してみてほしい。

をしたけど、その中でも大原のタコは絶品ですよ」とうれしそう。
藤井船長も、「このタコはイセエビを食っているから、甘みと風味が濃いと言われますね」と話してくれた。
「左舷でも上がっているよ」と船長の言葉で左舷に回り込むとミヨシ2番の瀬谷さんがすでに700グラムほどのマダコを手に入っていたのだが、なんと足が3本しかない。
おそらく天敵のウツボにで

中、瀬谷さんが「あつ」と声を上げた。あともう少しだった。

あと少しでバラシ

も食われたのだらうが、その生命力の強さには驚かされた。井原さんも400グラムの小ダコだったのが2杯目を釣り上げていたので、この流しでは船中4杯のマダコが取り込まれたことになる。
この調子でバンバン乗せたところだが、朝のチャンスタイムが過ぎるとポツリポツリの展開になってしまった。

▼トップは5杯を釣った井原さん



船長は色んなポイントを回ってくれたが、水深8メートルのポイントで瀬谷さんが久しぶりに「乗ったよ」と声を上げた。

たのに、痛恨のバラシである。すぐに仕掛けを落として乗り直しを狙うが、残念ながらタコは再び乗ってこなかった。
9時半になるとそれまで船酔いで休んでいた左トモのニタ見さんが復活して釣りを始めたかと思ったら、直後に1キロほどのマダコを釣り上げる。



▲浅野さんが上げた当日最大 1.5 キロ

目となるマダコを釣り上げると、ニタ見さんがまた釣れましてと800グラムほどのマダコで続く。
右舷トモの浅野さんは、「今度はまずまずだと思いきや」と巻き上げを開始して、船長の差し出すタモに収まったのは当日最大となる1.5キロ

●船宿information

外房大原港
長福丸
☎0470-62-0603
(詳細は巻末の情報欄参照)



藤井 俊輔船長

▶料金＝餌木タコ乗合一人1万円(氷付き)
▶備考＝予約乗合、4時集合。ほかイサキ、一つテンヤマダイ、ルアーヘモ

のマダコだった。これを最後に11時に沖揚げり。結果は0.4~1.5キロのマダコが1~5杯。今回は少々寂しい釣果だったが、大原のマダコの最盛期は8月なので、皆さんも夏休みを利用して大原のおいしいマダコを釣りに出かけていただきたい。



▲大原のマダコは数型ともに上向く8月が最盛期

▼餌木の色や種類にこだわるより、しっかり餌木を動かし誘うことが重要



関東でタコ釣りと言えばカニやサンマをテナヤに縛った手釣りが一般的だった。
一日中コツコツと小づくどちらかと言えば地味な釣りであり若者の姿も見かけなかったが、この数年でブレイクした餌木タコは老若男女に人

気がある。
タコ釣りのエリアは東京湾や常磐方面がよく知られているが、穴場的な存在なのが外房大原だ。
竿釣りの人気に押されて大原でも1~2年前から乗合船を出す船宿が増え、昨年は数

型ともに申し分なく大盛況だったのは記憶に新しい。
そこで、今年の模様はどうだろうと7月24日に外房大原港の長福丸へ出かけてきた。
長福丸では7月中旬から餌木タコ乗合を出しているが、トップで5~8杯と昨年ほど

ロス軽減 仕掛け

この釣りに根掛かりは付きもの。うまく外れればいいのだが、そっくり持っていかれてしまうというくらい餌木があっても足りない。
そこで紹介するのが親子サルカンを紹介してオモリと餌木をハリスで結ぶ方法。リーダー8号なら、ハリス6号で、うまくすると根掛かりしてもハリスが切れて仕掛けの全損は免れる。



▲オモリや餌木と金具の接続にハリスを介して根掛かり時のロスを軽減

3本足のタコ
ポイントの太東沖には30分ほどで到着。
「どうぞ。水深は12メートル。オモリは40号を付けてください」と開始の合図が出される。海底はゴロタ場で、所どころにツブ根があるそう。
釣り方は、リズミカルに海底を小づいていくとジワジワと穂先に重み加わり、まるで濡れ雑巾でも掛かったような手応えが伝わってくるので、こる合いを見計らい大きく竿を上げて合わせを入れる。根掛かりの場合は突然ガツツと硬い感触が伝わるので、無理

に引つ張らず道糸を張ったり緩めたりすると外れやすい。
1投目から左ミヨシの井原さんが大きく竿を曲げてリリングを開始。幸先よく800グラムほどのマダコを釣り上げて先陣を切る。
抱きをよくするためにブタの脂身やトリ皮を餌木に巻く方もいるが、井原さんの仕掛けは餌木の1本にトリ皮が巻かれたうえに集寄を装着した派手なものだった。
船は横流しで、流し変えるたびに潮先と潮下が入れ替わるスタイルなので席による優劣は少ない。
次の流しでは右舷胴の間の久下沼さんが700グラムを取り込むと続けざまに隣の席の浅野さんが500グラムと小ぶりながら1杯目をゲット。
久下沼さんは、「明石を始め各所でタコ釣り



●すずき よしかず／タコを軟らかくするのに私の場合は金属バットでたたきます。それを家の外でやるものだからよく不審者に間違われたり……。